

平成 18 年 12 月 21 日

各位

オリコン株式会社
代表取締役社長 小池恒

「ライター鳥賀陽弘道氏への提訴」について

一部報道にあった「ライター鳥賀陽弘道氏への提訴」につきまして、弊社の真意を社を代表して述べさせていただきます。弊社の真意は、鳥賀陽氏が「事実誤認に基づく弊社への誹謗中傷」があったことを認め、その部分についてのみ謝罪をしていただきたいというものです。

今回の提訴は、鳥賀陽氏が平成 15 年 2 月発売の週刊誌「AERA」において根拠不明のまま弊社を誹謗中傷したことが発端にあります。本年 3 月発売の月刊誌「サイゾー」においても、弊社のランキングに対しての「明らかな事実誤認に基づく発言」、すなわち「オリコンは調査方法をほとんど明らかにしていない」「オリコンは予約枚数をもカウントしている」というコメントを鳥賀陽氏は寄せています。弊社が問題にしている「明らかな事実誤認に基づく誹謗中傷」は鳥賀陽氏のコメント部分のみに掲載されておりました。弊社が鳥賀陽氏に宛てた内容証明郵便に対する回答 F A X の中で、鳥賀陽氏は、ご自身でコメントの内容を修正・編集された旨を述べております。これが鳥賀陽氏への提訴に及んだ理由です。また、鳥賀陽氏のマスコミへの影響力が決して小さくないことも我々は考慮に入れざるを得ませんでした。

弊社にとってランキングの信用は最も大切なものです。通常、ネガティブなご意見やご批評でも、基本的にそれを甘受いたします。ただ、「明らかな事実誤認に基づく誹謗中傷」に対しては、価値を守るためにその防衛に立ち上がります。

どんな企業も、主力商品を事実誤認に基づき誹謗中傷されれば、防衛に立ち上がるのではないのでしょうか。言い方を換えれば、それは義務であるとさえ言えます。

個人にとっても同じです。自分にとって一番大切なものが、事実誤認に基づき攻撃されるならば、防衛せざるを得ないのではないですか？

ただ、我々の真意はお金ではありません。個人攻撃でもありません。上記のとおり、鳥賀陽氏に「明らかな事実誤認に基づく誹謗中傷」があったことを認めてもらい、その部分についてのみ謝罪をして頂きたいだけです。その際には、提訴をすぐに取り下げます。

今後、鳥賀陽氏から、ネガティブなご意見やご批評を頂いても弊社は甘受します。鳥賀陽氏に限らずこれは全てのメディアに対しても同じ姿勢です。

ただ、「事実誤認に基づく誹謗中傷」に対しては、今後とも、確固たる姿勢での確な措置を講じて参ります。

我々にとってオリコンランキングの信用性は一番大切なものです。どうぞご理解ください。

以上